

[illegible]

即此紙字
由奉命者門吾全集之上監軍中

一、
二、
三、

九月廿四日

工月
土日
一、
二、
三、

七

一 武多子ては佐野一系 即紙と紙
 一 古人の言を
 一 口より出た言を
 一 今も言ふ言を

竹竿

主善乃壽之公門

是を以て
 是を以て
 是を以て

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

日金不立

一 此乃吾師之門徒也。今已入道。其
一 志亦與吾師同。一日。吾師偶見其
一 人。所用之筆。乃吾師之筆也。其
一 所書之字。亦與吾師之字同。其

[illegible]

主のうみは海にまかせたまふ
おきかたはしるしをいふ
おきかたはしるしをいふ
おきかたはしるしをいふ
おきかたはしるしをいふ

おきかたはしるしをいふ

おきかたはしるしをいふ
おきかたはしるしをいふ
おきかたはしるしをいふ
おきかたはしるしをいふ
おきかたはしるしをいふ

おきかたはしるしをいふ
おきかたはしるしをいふ
おきかたはしるしをいふ
おきかたはしるしをいふ
おきかたはしるしをいふ

おきかたはしるしをいふ
おきかたはしるしをいふ
おきかたはしるしをいふ
おきかたはしるしをいふ
おきかたはしるしをいふ

おきかたはしるしをいふ

おきかたはしるしをいふ
おきかたはしるしをいふ
おきかたはしるしをいふ
おきかたはしるしをいふ
おきかたはしるしをいふ

此の文は、
其の意を

口に出さずして、
心の中に
思ふこと
は、
人の心
を動かす
力がある
からである
。

此の文は、
人の心
を動かす
力がある
からである
。

此の文は、
人の心
を動かす
力がある
からである
。

十月
十日
此の文は、
人の心
を動かす
力がある
からである
。

今何處なるかと尋ねて

一、王、安、生、所、一、系、中、下、之、所、以、全、

可也

其意乃在吾國之故

以之田村也。其地出產藥物，又法師。

別如

心者乃此心也

卷之四

才生

任事者

出子中

以爲田村是爲村名隨筆伯父建

歌壇の法友とて四方を社學の所々
出づりては元帥の府に新刻の書あり
仕るる家ありては又侍るる家あり
は後よりあり

李

32

新書之過 乃今新書之過 熟讀其文 乃今

[illegible]

此乃其

五洲大藥房

来

[illegible][illegible][illegible]

多子多孫

明方所 所妙之 君者 一
修方之 方之 方之 方之
所金 所金

著の利本

竹寺の山の下にありて

高家下分五區內全之五所名之

此年之三月三日
如川之流

[illegible]

井白村歌

[illegible]

十

青

十四日

今相 内上 清之 少 次 生 入

[illegible]

一 山川草木を記す

張敬之

何子伯成字惟孝家系名士子能

中
上
下
左
右
前
後
東
西
南
北

ちんちんをさす子ねしとておぼえにほふ

[illegible]

大凡此等書卷非一

卷之六

富貴榮華

42

山内書局

市

法之他種の役者としてのみ求めず

此後又作何事

[illegible]

乃知愛人爲己也

乃今之世也

東坡先生文集卷之五

古

胡歌

一、
...
...
...
...
...
...
...
...
...

卷之四

[illegible]

音

子

[illegible]

十月

十日

野

内信

一 内信を以てして其の事

一 内信を以てして其の事

一 内信を以てして其の事

一 内信を以てして其の事

一 内信を以てして其の事

一 内信を以てして其の事

一 内信を以てして其の事

一 内信を以てして其の事

一 内信を以てして其の事

一 内信を以てして其の事

一 内信を以てして其の事

一 内信を以てして其の事

一 内信を以てして其の事

一 内信を以てして其の事

一 内信を以てして其の事

一 内信を以てして其の事

一 内信を以てして其の事

一 内信を以てして其の事

一 内信を以てして其の事

一 内信を以てして其の事

一

[illegible][illegible][illegible][illegible]